

福祉ボランティア活動実践校事業及び
地域ぐるみボランティア活動推進事業

令和元年度

活動集



ふれあいネットワーク



社会福祉
法人

甲府市社会福祉協議会

甲府市ボランティアセンター

はじめに

少子高齢化や核家族化の進行に加え、スマートフォンやインターネットの普及による情報の伝達や共有方法の多様化は、人と人、人と地域のつながりに大きな変化をもたらしています。

高齢者などの社会的な孤立や引きこもり、子育てと介護の同時進行、子どもの貧困や社会的弱者に対する虐待など、既存の社会福祉制度では容易に対応できない複雑・多様化した地域課題が私たちの身の回りで起きています。

これら課題の克服に向け、地域住民をはじめ地区社会福祉協議会等の各種団体や行政等が連携・協働し、地域福祉を推進する取組がこれまで以上に求められております。

こうした中、甲府市社会福祉協議会では、令和元年度も引き続き、限られた資源を地域の人々が上手に共有し、地域を暮らしやすく変えていく取組として「地域ぐるみボランティア活動推進事業」を実施いたしました。また、地域の様々な主体が協力し、次世代を担う子供たちが豊かな人間性と社会性を育み、社会的自立と自己実現を図ることを目的に、市立の小・中学校を対象とした「福祉ボランティア活動実践校事業」にも取り組んだところです。

この度、令和元年度の「地域ぐるみボランティア活動推進事業」及び「福祉ボランティア活動実践校事業」の取組を活動集として作成いたしましたので、ご活用いただければ幸いです。

結びに、この事業推進のために、ご尽力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、現在も新型コロナウイルス感染拡大の影響のある中で、地域の各種活動に取り組まれている皆様には、敬意と感謝を表するものであります。

今後におきましても当協議会に対しまして、さらなるご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年6月

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会
会 長 山 田 文 夫



目 次

福祉ボランティア活動実践校事業実施要領	1
福祉ボランティア活動実践校一覧	3

【令和元年度福祉ボランティア活動実践校】

①甲府市立池田小学校	4
②甲府市立石田小学校	5
③甲府市立湯田小学校	6
④甲府市立伊勢小学校	7
⑤甲府市立国母小学校	8
⑥甲府市立東小学校	9
⑦甲府市立相川小学校	10
⑧甲府市立千塚小学校	11
⑨甲府市立東中学校	12
⑩甲府市立南中学校	13
⑪甲府市立里垣小学校	14
⑫甲府市立玉諸小学校	15

地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領	16
-----------------------------	----

【地域ぐるみボランティア活動推進事業】

玉諸地区社会福祉協議会	17
国母地区社会福祉協議会	23

甲府市ボランティアセンターの紹介	28
甲府市ボランティアセンター事業の紹介	30
福祉講話講師の紹介	31
高齢者疑似体験セットの紹介	32

甲府市社会福祉協議会 福祉ボランティア活動実践校事業 実 施 要 領

第1条 目的

この要領は、社会福祉法人甲府市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）が、児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うとともに、家庭や地域に開かれた福祉教育と地域に根差したボランティア活動の実践を図ることを目的とする。

第2条 実施主体

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会とする。

第3条 実施の期間

平成30年度から3年間とする。

第4条 ボランティア活動実践校の指定

実践校の指定は、甲府市立の小・中学校及び高等学校の中から、協議会が指定した学校（以下「実践校」という。）とし、事業期間中一の年度において協議会が学校を指定する。

第5条 協議会の役割

次の各号を行うものとする。

- （１）事業の説明会及び実践校相互の連絡調整や情報交換を図るための連絡会議の開催
- （２）実践校の指定
- （３）助成金の交付
- （４）福祉教育に関する相談
- （５）福祉講話の講師の紹介
- （６）職員及びボランティア等の派遣
- （７）福祉体験器材の貸出
- （８）事業推進に必要な資料及び情報の提供
- （９）その他

第6条 実践校の活動

実践校は、それぞれの学校と地域の実情にあわせ、次の各号に定める活動を行う。

- （１）広報・啓発活動
 - ・福祉講演会及び展示会等の開催
 - ・福祉・ボランティア活動PR紙等の発行
- （２）調査・研究・学習活動
 - ・車いす及び高齢者の体験
 - ・手話、点訳、音声訳及び要約筆記等の学習
 - ・福祉関係及びボランティア関係等の図書、資料整備

- (3) 体験学習を目的とした実践活動
 - ・ 社会福祉施設等への訪問による入所者との交流や介護等の体験活動
 - ・ 体育祭、文化祭等の学校行事への高齢者、障がい児（者）等の招待
- (4) 社会福祉事業への参加・協力
 - ・ 近隣地域において各種のボランティア活動
 - ・ 共同募金への協力
 - ・ 古切手、牛乳パック及びエコキャップ等の収集
- (5) 協議会の実施する事業への参加
 - ・ ふれあい交流フェスタ並びに養成講座及び研修会などへの参加
- (6) その他社会福祉に関する活動

第7条 助成金

実践校への助成金は、第6条に定める活動に必要な諸謝金、旅費交通費（講師の移動に係る経費）、消耗品費、印刷製本費及び協議会が必要と認めた経費とする。

2 助成金は、協議会の予算の範囲内で、1校につき4万円を上限に必要な経費を助成する。

第8条 助成金の申請

助成を受ける実践校は、次の書類を協議会会長に提出する。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業助成金申請書（第1号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業事業計画・予算書（第2号様式）

第9条 実績の報告

実践校は、事業年度終了後20日以内に、次の書類を協議会会長に提出しなければならない。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業実績報告書（第3号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容（第4号様式）
- (3) 福祉ボランティア活動実践校事業収支決算書（第5号様式）
- (4) 事業に関わる領収書（写し可）

第10条 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度協議して定めるものとする。

附 則

この要領は、平成24年4月1日から施行する。

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

福祉ボランティア活動実践校事業 指定校

【平成30年度～令和2年度実施】

No.	学 校 名	指 定 年 度		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1	善 誘 館 小 学 校	○		
2	山 城 小 学 校	○		
3	大 国 小 学 校	○		
4	千 代 田 小 学 校	○		
5	新 紺 屋 小 学 校	○		
6	北 東 中 学 校	○		
7	北 西 中 学 校	○		
8	城 南 中 学 校	○		
9	甲府商業高等学校	○		
10	大 里 小 学 校	○		
11	甲 運 小 学 校	○		
12	新 田 小 学 校	○		
1	池 田 小 学 校		○	
2	石 田 小 学 校		○	
3	湯 田 小 学 校		○	
4	伊 勢 小 学 校		○	
5	国 母 小 学 校		○	
6	東 小 学 校		○	
7	相 川 小 学 校		○	
8	千 塚 小 学 校		○	
9	東 中 学 校		○	
10	南 中 学 校		○	
11	里 垣 小 学 校		○	
12	玉 諸 小 学 校		○	
1	貢 川 小 学 校			○
2	中 道 南 小 学 校			○
3	中 道 北 小 学 校			○
4	北 新 小 学 校			○
5	羽 黒 小 学 校			○
6	舞 鶴 小 学 校			○
7	朝 日 小 学 校			○
8	西 中 学 校			○
9	富 竹 中 学 校			○
10	南 西 中 学 校			○
11	笛 南 中 学 校			○
12	上 条 中 学 校			○
13	北 中 学 校			○
合 計		12	12	13

1 甲府市立池田小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	甲府支援学校との同学年交流及び共同学習、盲学校教科交流及び共同学習	11.8	盲学校見学・点字・共用品の学習及び白杖体験（4年生）
通年	美化委員会と地域の方による花いっぱい運動	11.16	土曜参観にて福祉講話（4年生と保護者）
9.28	盲学校児童、秋季大運動会参加	12.13	地域の高齢者の方々と昔の遊び大会（1年生）
		R2.1.15	地域の食生活改善推進委員会の方々とほうとう作り（6年生）

2 取り組み事例

（1）昔の遊び大会

地域の老人クラブの方々に来ていただき、1年生が昔の遊びを教えていただきました。初めてする遊びも多く、教えていただく中で自然と高齢者とふれあえる有意義な時間になりました。



（2）福祉講話

4年生の総合的な学習で、様々な不自由さをもつひとのこについて学習しました。土曜参観では、地域在住の肢体不自由の方より講話をいただきました。児童と保護者がそれぞれの目線で思いをもちながら講話を聞き、学習を深めることができました。

（3）美化委員会

地域の社会福祉協議会の方に教えていただきながら、美化委員会児童が中心となり夏と秋の2回ビオラや松葉ボタンを植え、校内に花いっぱい運動の推進をしました。児童は、日々の水やりや追肥をし、全校できれいな花を楽しむことができました。

（4）ほうとう作り

地域の食生活改善推進委員会の方々を講師として招き、6年生と山梨県の食材（地粉など）を用いて郷土料理「ほうとう」を調理する活動を通して、郷土に愛着をもち大切にする態度を育てるとともに、地域の方々との交流を深めることができました。



3 一年間の評価と課題

池田小学校では、福祉教育の中で「交流及び共同学習やボランティア活動を通して心身に障がいを持った人や高齢者などに対して思いやりのある子どもを育てる」ことを目標として、いろいろな活動を計画して取り組んできました。特に20年以上続いている甲府支援学校や盲学校及び本校特別支援学級との交流及び共同学習では、障がいをもった友達を知り自然に関わり合いができるようになっていくことを感じます。今後も計画的に教育課程に活動を組み込みながら、福祉教育を実践していきたいと思ひます。

2 甲府市立石田小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動	11.14	3年生福祉講話
	給食の牛乳パックリサイクル	11.29	4年生福祉講話
	朝の読み聞かせボランティア	12月	赤い羽根共同募金
	ペットボトルキャップ収集	12月	歳末たすけあい運動
	古切手・使用済みテレフォンカード・書き損じハガキ収集	12月	愛町奉仕作業
6月	愛町奉仕作業	R2.1.16	1年生昔の遊び集会 (地域の高齢者と一緒に)
8.18	PTA 奉仕作業	1.29	2年生命の学習

2 取り組み事例

(1) 福祉講話（3年生・4年生）

3年生は総合「耳の不自由な方から学ぼう」の学習で、講師をお招きし、福祉講話を聴きました。手話通訳の方と一緒に来校していただき、話を聴くことで、生活の大変さを感じ、また、耳からの情報の大切さを知ることができました。

4年生は総合「目の不自由な人の生活を知ろう」で、講師をお招きし、福祉講話を開きました。目の不自由な方の生活について、実際に道具を見せていただきました。そして盲導犬についての話を聴いたことで、目が不自由な生活の大変さを感じ、少しでもよりよく暮らすにはどんなことが必要なのかなどを考えることができました。



(2) 命の学習（2年生）

2年生は、生活科「ぼくわたしのものがたり」の学習で、養護教諭から命の誕生について話を聞きました。最初は点くらいの大きさから赤ちゃんの大きさになるまでの過程を知り、赤ちゃんの人形を抱く経験などから、命の不思議について学習しました。



3 一年間の評価と課題

年間を通して、児童会活動を行い、お互いの価値を認め合う活動ができました。また、福祉講話や命の学習を通して、障がいをもつ方々への理解や思いやりの心を持つことができました。これからも、教科・総合的な学習の時間及び道徳とも関連させながら、これからも継続して取り組み、豊かな心を育てていきたいと思います。

3 甲府市立湯田小学校

1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	・あいさつ運動 (0・8・4のつく日に呼びかけ 毎月1週間学年で呼びかけ) ・ゴミゼロ運動(月・木曜日) ・ペットボトルキャップ、牛乳パック、 古切手回収 ・6年生の放課後児童クラブでのボラン ティア活動	10.9 11～12月 11.9 11.24 12.3 R2.3～7 2.5	1年生福祉講話 落ち葉はき 4年生・5年生福祉講話 地域の清掃活動 クリーンアップ作戦 ボランティア週間 (高齢者疑似体験・白杖体験) 2年生・3年生福祉講話

2 取り組み事例

通年の取組として、あいさつ運動では、084のつく日に児童会役員・学級役員が登校時にあいさつを呼びかけている。あいさつは相手を見て行い、あいさつ後にタッチをするようにしている。また、あさがお運動として、毎月1週間学年で分担し、曜日を決め、あいさつを呼びかける活動をしている。月・木曜日には、校庭に落ちているゴミを拾いながら登校し、児童玄関前のゴミ箱に捨てるようにしている。特に、10月下旬から12月にかけては、落



ち葉が多く、高学年が中心となり、落ち葉はきを行い、地域や保護者にも協力をいただいた。6年生は、月か火の放課後児童クラブの子供たちとふれあうボランティアに取り組んでいる。

福祉講話として、1年生は視覚障がいの方、2・3年生は聴覚障がいの方を招き、「ハートフルハンドの集い」として集会をしている。4年生は視覚障がいの方、5年生は肢体不自由の方を招き、土曜参観の日に行い、保護者の方も一緒に講話を聞いた。



3 一年間の評価と課題

福祉講話やボランティア体験を通してボランティアや福祉について学ぶことが出来た。6年生は、放課後児童クラブでの活動等、福祉活動を実践している。また、地域のボランティア活動への参加も多く見られる。

しかし、児童の安全面を配慮や行事の精選等から、活動を縮小していくことも考えられている。そのような中で、活動をより充実しつつ、子供たちにより実践的な福祉の心を育てていくことが課題である。

4 甲府市立伊勢小学校

1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	あさがお（あいさつ）活動	10.15	5年生福祉講話
	花いっぱい活動	11.7	3年生福祉講話
	使用済みはがき・古切手・タオル等集め、	11.8	4年生福祉講話
	ペットボトルキャップ集め等、赤い羽根	11.13	ライフケアセンター訪問（4年生）
	共同募金等	12. 上旬	アイマスク、車いす、高齢者体験（4年生）
7.15	ライフケアセンター訪問（児童会本部）		

2 取り組み事例

① あさがお（あいさつ）活動

あいさつのあふれる学校を目指し、児童会と各クラス、縦割り班で分担してあいさつ活動に取り組みました。保護者も一緒に行う機会も設けあいさつの輪が広がりました。



② 福祉講話

3～5年生が、福祉講話を行いました。講師の方々が、障がいについて、実物やスライドを使ってわかりやすく説明してくださいました。今回の機会を通して、困難に打ち勝つ強い心の大切さや、障がいのある方に対して自分ができることを考える機会となりました。



3 一年間の評価と課題

今年度も、年間を通じて、様々な形で福祉教育・福祉活動を進めることができました。子供たちも、体験的に学ぶ機会を持つことで、より深い学びが得られました。今後は、さらに内容を精選しながら、福祉教育を進めていきたいと思ひます。

5 甲府市立国母小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ごみゼロ運動・愛校奉仕作業 あいさつ運動 ペットボトルキャップ回収 牛乳パックリサイクル回収 ボランティアの方による読み聞かせの活動 青少年加盟登録式 赤十字 VS 活動 (ボランティアサービス)	9月	高齢者への手紙
		10.24	福祉講話（3年生）
		10.30	福祉講話（4年生）
		11.23	荒川河川敷清掃（本年度は雨天のため中止）
		11月～12月	全校落ち葉清掃
		12月	ユニセフ・赤い羽根共同募金
		R2. 1月	書き損じはがき、古切手回収
		1月	高齢者との交流（昔の遊びを教わろう）
		3月	ボランティア感謝会

2 取り組み事例

① 福祉講話について

10月に3年生が聴覚障がい者の方から、4年生が視覚障害者の方からお話をうかがいました。聴覚障がい者の方は小学生の頃は先生の声が聞こえないので板書を懸命に写して学んだことや手話についても教えていただきました。また、視覚障がい者の方は盲導犬と一緒に電車やタクシーを乗り継いで国母小学校まで来られたこと、また点字についてもくわしく教えていただきました。お話から健常者である子供たちの生活からは想像ができない日常の様子を知ることができました。これから自分たちにできることを考える良い機会となりました。



② 落ち葉清掃

毎年校庭の木の葉が落ちる季節になると、全校児童で毎日、順番に落ち葉掃きをしています。本校の校庭には、欒、イチョウ、ハナミズキ、桜等、たくさんの大きな木があるため、この時期は毎日取り組んでもたくさんの葉が落ちてしまいます。子ども、教員が一体となって自分たちの学校を自分たちの手できれいにしていくことを、体験を通して学んでいます。



今回のお話を聞いて～子どもの振り返りカードより～

耳が聞こえない人は相手の発音が聞こえないからきれいな声を出すことができない。でも障がいがある人はかわいそうな人ではなくて、みんなと同じ普通の人間である。スマホを枕の下において振動で起きたり、道を聞かれた時は紙に書いたりして教えている。手話という手を使って話をすることもできる。また耳が聞こえない人のためのデフリンピックというオリンピックがあることも初めて知った。このようにいろいろな工夫をしながら生活していることがわかった。

3 一年間の評価と課題

今年度も、年間を通して福祉教育活動を計画的に行うことができました。通年を通して行っている児童会活動や環境教育活動の中で、ボランティア活動に積極的に参加しようとする気持ちが浸透してきました。また、今年は地域の方に協力いただいて、年間を通して各学年の発達段階に応じた講師の方に来ていただき、様々な活動を行ってきました。そして、そのお礼の意味も兼ねて、「令和を生きる新たな国母小の歴史を創る学習発表会」に参加していただきました。子供たちにとって、とても有意義な活動となりました。障がいを持った方やお年寄り、地域の方との交流を通して、自分たちにできることを考えたり、誰に対しても思いやりの気持ちを持って接することの大切さをあらためて学んだりすることができました。来年度も、これらの活動を継続し、子供たちの心が豊かに育まれるよう福祉教育を充実させていきたいと思います。

6 甲府市立東小学校

1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	・ 給食の牛乳パック収集活動	10 月	福祉講話 4 年生
	・ 家庭からの牛乳パック収集活動		赤い羽根共同募金運動
	・ ペットボトルキャップ収集活動	11 月	落ち葉ひろい当番 各学年
	・ 古切手収集活動		「地域のお年寄りとふれあおう」 3 年生

2 取り組み事例

福祉講話

4 年生が総合的な学習の時間に耳の不自由な方のお話をお聴きしました。耳の不自由な方が普段どのような生活をしているのかを聞き、自分たちにできることはないかを考えることができました。



国語の学習と関連して、点字体験を行いました。実際に目

の不自由な方が使われている点字がどのように作られているのかを学びました。

作成してみると、読みとる難しさや工夫されている点に気づき、体の不自由な方の気持ちを考えるきっかけとなりました。



3 一年間の評価と課題

今年度も、4 年生を中心に幅広く福祉に関わる学校行事を行うことができました。

ボランティア委員会と連携した活動にも精力的に取り組み、全校で協力することができました。今後も継続的に福祉ボランティア活動に取り組んでいきたいです。

7 甲府市立相川小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	古切手収集	10.28	相川ケアセンター訪問
	ペットボトルキャップ集め	11月	歳末助け合い運動
	牛乳パック回収	11.23	甲府市青少年美化活動
6.3	親子クリーンアクション	R2.1月	書き損じはがき収集
9月	高齢者と児童の手紙交換		

2 取り組み事例

「学校を花でいっぱい」の心で、飼育栽培委員が行ってきた活動に、福祉委員も加わり、たくさんの花を育てました。育てた花は相川ケアセンター訪問の際にお届けし、お年寄りの方々に大変喜んでいただきました。施設では交流の時間を持つことができ有意義な活動になりました。

3 一年間の評価と課題



本校では、福祉委員を中心に福祉活動への取り組みが定着してきています。

特に年末に行っている歳末助け合い運動への取り組みは、児童一人ひとりが自分にできることは何かを考え活動に参加することができました。今後も福祉委員が中心となり、福祉の心を育む活動を継続していきたいと思います。

8 甲府市立千塚小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動	12月	赤い羽根共同募金
8.31	PTA奉仕作業	12.20	昔の遊び体験（1年生）
10.24	介護施設訪問（5年生）	R2. 1-2月	古切手、書き損じはがきの回収
11.7	福祉講話（4年生）		

2 取り組み事例

（1）PTA奉仕作業

夏休み期間に児童・保護者・教職員で学校内の清掃を行いました。普段の清掃活動ではなかなかできない高いところの清掃や重いものを移動しての清掃を中心に行いました。互いにコミュニケーションをとりながら清掃を行い、生活しやすい環境づくりに努めることができました。



（2）福祉講話（4年生）

視覚障がいの方と盲導犬を招き、福祉講話を行いました。視覚障がいの苦勞やそれを支える盲導犬についてお話を伺いました。視覚障がいの方の立場になり、どのような接し方や支援がうれしいかを考え、これからの行動につなげようとしていました。視覚障がいについて理解を深める機会となりました。



3 一年間の評価と課題

地域に住む方との交流を通して、子ども達はいろいろな角度から福祉について考えることができました。実際に見て、聞いて、体験することで、事前に学習した知識に加えて、実感を伴った理解へとつなげることができました。福祉教育は学習という点以外に、心を育てるという点からとても有意義な活動であると感じています。これからも取り組み続けていく必要があると感じます。

9 甲府市立東中学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 ペットボトルキャップ収集	11・12月	ブロック別落ち葉清掃
5月	かえで支援学校メッセージ交換	12月	赤い羽根共同募金
7.3	かえで支援学校との交流会	12.10	かえで支援学校との交流会
11.25	福祉講話「命の大切さを学ぶ授業」	R2. 1月	書き損じはがき収集

2 取り組み事例

(1) かえで支援学校との交流会

本校ではかえで支援学校との交流を継続して行っています。1年生はお互いの学校を行き来しクラスや学年でレクやプレゼントの交換を行いました。2年生は2校の学園祭で作品展示を行いました。生徒はこの活動を通しかかわり方を学び、楽しみながら活動に参加することができました。



(2) 福祉講話「命の大切さを学ぶ授業」

11月25日に瀬近静瑛様をお招きして行いました。自分の命を大切にすることはもちろん、自分の家族や周りの仲間の命を大切に生活していくことを改めて学ぶ機会になりました。

(3) あいさつ運動・ペットボトルキャップ収集

生活委員会や福祉委員会を中心に活動を行いました。また、ブロックで校内の落ち葉の清掃を行いました。



3 一年間の評価と課題

かえで支援学校の生徒と一緒に活動を通して、個性を認めながらどのように関わっていくかを考えることができました。その場だけの交流で終わらず、休み時間に同じクラスで交流した生徒に声をかける姿も見られました。継続して行われていることから、学校の中だけでなく、社会でも行動できる力として身につけさせていかなければいけないと感じています。

10 甲府市立南中学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あさがお運動（あいさつ運動） 古切手・書き損じ葉書回収 花壇・プランター花の植え替え・水やり たてわり清掃	通年	募金活動 NHK 海外たすけあい・1円玉募金 老人ホーム訪問
		12.3	クリーンアップ大作戦 南甲府駅・湯田交番のプランターへの花 植え
		12月	赤い羽根共同募金・歳末助け合い募金活 動

2 取り組み事例

（1）あいさつ運動・花植えなど

年間を通して、あいさつ運動や委員会が主導する花の植え替えなどが定着しています。また、南甲府駅などへの花の水やりは生徒だけでなく地域の方との交流の場となっています。さらに、今年は園芸委員がさつまいもを育て、毎年、年5回程訪問をしている老人ホームに届ける計画を立てました。収穫がうまくいかず届けることは叶いませんでしたが、作物を育てる難しさや大切さを学ぶことができました。



（2）クリーンアップ大作戦

学校周辺の道路や南甲府駅の地下通路の清掃があります。毎月実施しているたてわり清掃で培った技術と心を地域美化活動に生かしています。全学年でたてわりグループを構成し、この清掃に取り組んでいます。上級生から下級生に受け継がれ、本校の伝統になっています。

3 一年間の評価と課題

毎年行っている活動が、たてわりのグループによって計画されることで、学年を超えた生徒同士のつながりを深め、本校の伝統として根付いています。また、地域の方々も作業をしていると声をかけてくれ、日頃の関わりを感じさせてくれました。このつながりがボランティア活動には不可欠と感じられます。

11 甲府市立里垣小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	・あいさつ運動 ・ペットボトルキャップ、ベルマーク等 収集 ・愛町奉仕作業（町別児童会） ・給食の牛乳パックリサイクル かえで支援学校との交流会	5.29 10.15	3年生
6.24 10.28	1年生	6.13 10.7	4年生
6.7 10.15	2年生	7.1 10.29	5年生
		6.4 10.29	6年生
		10.16	福祉講話（4年生）
		11.16	認知症学習（4年生）

2 取り組み事例

① かえで支援学校との交流会

本校では、かえで支援学校との交流会を各学年で年2回ずつ実施しています。毎年交流を続けることにより、子どもが互いの名前を覚えたり特性を理解したりと、よりよい関わりが生まれています。6学年は、里垣小学校で行われる秋祭り集会へも招待して交流を深めることができました。



② 福祉講話（4学年）

10月16日に、甲府市障害者センターから山田様と長田様をお招きし、「だれもがよりよく関わり合う」をテーマに授業を実施しました。障害者センターの働きや、視覚障害のある人の生活などについて、講師の話を聞いたり道案内の補助の仕方などについて体験したりしました。

3 一年間の評価と課題

児童会を中心に様々なボランティア活動に取り組むことができました。福祉講話では、国語の学習とも関わって体験的に学ぶことができ学習を深めることができました。また、かえで支援学校との交流も両校の年間指導計画に組み込まれており、継続的な交流がなされていることの意義は大きいと思います。今後も、共に生きる心や力を育んでいきたいです。

12 甲府市立玉諸小学校

1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	あいさつ運動	6.6	高齢者疑似体験
	エコキャップ・古切手・書き損じハガキ回収	10.7	高齢者施設訪問
	たてわり班による清掃活動	R2.1	書き損じはがき回収

2 取り組み事例

(1) 高齢者疑似体験

ボランティア委員会では、秋の高齢者施設訪問を控え、高齢者の日常生活を体験しました。社会福祉協議会の方々に来校していただき、装具をつけての歩行、はがき書き、箸での豆つかみなどを体験しました。例年、プレゼントや演奏の披露などを行っていますが、高齢者の不便や困りごとなどを体験することで、訪問へ生かそうと取り組みました。

体験後は、「お年寄りの人たちの大変さが分かったので、施設訪問のときに生かして、工夫したい。」「耳が聞こえにくいことが分かったので、施設訪問では大きな声で話そうと思った。」などの感想が聞かれました。



(2) 高齢者施設訪問

事前に練習した合唱「ふるさと」を聞いていただいた後、それぞれのテーブルに分かれて一緒に折り紙を楽しみました。子供たちと楽しそうに話をしながら折り紙をするお年寄りの姿が印象的でした。短い時間でしたが、お互いに有意義な時間を過ごせました。



3 一年間の評価と課題

今年度も、児童会やボランティア委員会の取り組みにより、年間を通して活動できました。また、今年度は、社会福祉協議会の方々の協力で、高齢者の疑似体験活動を行うこともできました。福祉活動を通し、子供たちが、身近な人への優しさや様々な人たちと共に生きる力を育むことができたと思います

甲府市社会福祉協議会

地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領

第1 目 的

地域で共に安心して暮らし続けられる地域社会の再構築や子供たちを始めとする地域における「福祉のこころ」の醸成をするため、地区社会福祉協議会及び関係団体並びに学校が地域ぐるみで連携して進める福祉教育やまちづくりを推進することを目的とする。

第2 実施主体

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）とする。

第3 推進主体

協議会が指定した地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）とする。

第4 実施の期間

4月1日から翌年の3月31日までの一年度

第5 地区社協の指定

一年度につき2地区社協

第6 運営及び活動内容

- (1) 福祉教育推進委員会の設置及び運営
地区社協は、活動の母体となる福祉教育推進委員会を設置し運営する。
- (2) 福祉教育推進委員会は、地域の関係者や学校と連携して、地域の実情にあわせた福祉教育活動を企画・実施する。また、地区社協の実施する事業および学校行事への参加・協力を行う。

第7 助成金

地区社協への助成金は、第6に定める活動に必要な諸謝金、旅費交通費（講師の移動に係る経費）、消耗品費、印刷製本費及び協議会が必要と認めた経費とする。

- 2 助成金は、地区社協予算に計上し収支項目を明確にして会計処理を行う。
- 3 助成金は、協議会の予算の範囲内で、1地区につき10万円を上限に必要な経費を助成する。

第8 助成金の申請

助成をうける地区社協は、次の各号に定める様式を協議会に提出し、承認を受けなければならない。

- (1) 地域ぐるみボランティア活動推進事業助成金交付申請書（第1号様式）
- (2) 地域ぐるみボランティア活動推進事業事業計画書（第2号様式）
- (3) 地域ぐるみボランティア活動推進事業収支予算書（第3号様式）

第9 実績の報告

地区社協会長は、事業年度終了後20日以内に、次の各号に定める様式を協議会に提出しなければならない。

- (1) 地域ぐるみボランティア活動推進事業実績報告書（第4号様式）
- (2) 地域ぐるみボランティア活動推進事業事業報告書（第5号様式）
- (3) 地域ぐるみボランティア活動推進事業収支決算書（第6号様式）
- (4) 事業に関わる領収書（写し可）

第10 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度協議して定めるものとする。

附 則

この要領は、平成24年4月10日から施行する。
この要領は、平成27年4月1日から施行する。
この要領は、平成30年4月1日から施行する。

令和元年度 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実績報告書

玉諸地区社会福祉協議会

1 福祉教育推進委員会

委員構成	役 職	氏 名
20名	玉諸地区自治会連合会会長	渡邊 康雄
	玉諸地区民生委員児童委員協議会会長 主任児童委員	池川 睦平 小野 正文
	玉諸地区福祉推進員代表	小林 達男
	玉諸地区青少年育成推進協議会会長	中川 智晴
	玉諸地区子どもクラブ指導者連絡協議会会長	天野 一
	玉諸地区文化協会会長	戸澤 清茂
	玉諸地区体育協会会長	小池 一男
	玉諸地区シニアクラブ連合会会長	竹川 森美
	玉諸地区愛育会会長	原 徳男
	南甲府交通安全協会玉諸支部支部長	帯野 渡
	玉諸地区食生活改善推進委員会会長	宮崎 芳
	甲府市社会福祉協議会会長 主補	山田 文夫 片岡 秀元
	玉諸地区社会福祉協議会会長 副会長	奥山 美彦 山田 道子
	玉諸小学校PTA会長	後藤 拓
	玉諸小学校校長 教頭 主幹教諭	岩下 清彦 保坂 茂 小沢慎太郎
開催期日	内 容	
R 1.5.9	第1回「地域ぐるみボランティア活動推進事業」福祉教育推進委員会 会場 玉諸悠遊館 ・「地域ぐるみボランティア活動推進事業」実施計画について ・推進事業の連携について	
R 2.2.18	第2回「地域ぐるみボランティア活動推進事業」福祉教育推進委員会 会場 玉諸悠遊館 ・「地域ぐるみボランティア活動推進事業」実施報告について ・今後の事業推進時の連携について	

2. 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実施内容

(○は既存の活動、◎は新設の活動)

(1) 「学校・地域との連携による、いのちの授業」

期 日	会 場	内 容
5.14	校庭	○ミニトマト・オクラ・なす・ピーマン植え (10:50~12:25 11名) 小雨が降ったりやんだりの悪天候の中でしたが、ボランティアの方々が屋根のある玄関前で、2年生の児童に土と肥料を混ぜ込んでくださいました。その土を植木鉢に入れてもらい、植え方を教えてもらいながら、楽しく苗や種を植えることができました。 
5.22	校庭	○サツマイモの苗植え (10:50~12:25 9名) 毎年2年生が育てているサツマイモを、地域ボランティアの皆さんに植え方を教えてもらいながら植えることができました。秋の収穫に向けて、みんなで大切に育てることを約束しました。毎月の朝のあいさつ運動にいらしたボランティアも気にかけて育て方を指導してくださいました。 
7.4	音楽室	◎戦争体験講話 (8:20~9:15 1名) 7月7日は74年前に甲府空襲があった日です。平和の大切さについて学習するため、地域の戦争体験者が6年生を対象にお話をしてくださいました。玉諸地区でも空襲で火事があったこと、甲府駅の方角が見たこともない赤色に燃えていて、その色が今でも忘れられないこと、当時の食事の様子や生活の様子など、実際に体験した方のお話は、より具体的でより真実味があり、6年生の子ども達は心ゆさぶられたようでした。その後の感想文からも平和を守っていきたい決意が読み取れました。 
6.4~6.7	各地域	○通学路危険箇所の点検解消 (19:30~20:30) 地域の各会の皆様と家庭、学校が連携して地区別に町別安全集会を実施し、各地区の危険箇所等について話し合いました。この結果を集約し、甲府市に要請することで今年度も危険箇所の確認と安全への周知徹底が図られました。
11.6	校庭	○ビオラの苗植え (8:20~10:00 8名) 毎年1年生が、アサガオを育て終わった植木鉢にビオラを植えて育てています。今回はその土づくりと土を鉢に入れる作業をお手伝いいただきました。地域ボランティアの皆様と1年生が交流している姿はとてもほほえましく、1年生も楽しく鉢植え体験でき、楽しいひとときを過ごしました。「大事に育ててきれいな花が咲くといいな。」「地域の人に手伝ってもらってうれしかった。」等子ども達の声が聞かれ、大事に育てていこうとする気持ちが見られました。この鉢は、来年の入学式での体育館の飾りに使われ、新入生を迎え入れてくれる予定です。  

期 日	会 場	内 容
11.12	校庭	○サツマイモの収穫（11:00～12:30 9名） 5月に地域ボランティアの皆様と植えたサツマイモを、やはり地域ボランティアの皆様にご手伝いいただきながら収穫しました。初めにサツマイモの蔓を切ってもらいました。大量の蔓に子ども達もびっくりでした。ビニールマルチシートも剥がしてもらい、いよいよ2年生の出番です。芋を痛めないように、はやる気持ちを抑え、そうっとそうっと掘っていくと・・・大きなサツマイモが出てきました。子ども達の「あった～！」という歓声に、「芋ほりで心が通じ合いました」とうれしさに輝く笑顔に、ボランティアの皆様も気持ちがふかし芋のようにほっこりしたようでした。



（2）「学校・地域・関係機関等の連携による、福祉教育の取り組み」

期 日	会 場	内 容
6.6	体育館	◎高齢者、障害者疑似体験 (15:00～16:00 12名/甲府市社協より4名参加) 本校のボランティア委員会の5・6年生が、玉諸地区と甲府市の両福祉協議会と一緒に高齢者障害者体験を行いました。高齢者体験では、重いベストを着たり、足に重りを巻いたりするので、地域ボランティアの皆様にも脱着や体験のお手伝いをしていただきました。箸で豆を皿に移し替えたり、手紙を書いたり、買い物の疑似体験をしたりして、高齢者の大変さを体験することができました。子ども達からは、「お年寄り的大変さやつらさがよく分かりました。」「お年寄りのことがよく分かったので、進んで手助けしたいと思いました。」という感想が出されました。
夏休み	トリアス へいりん荘	○トリアス・へいりん荘訪問（10:30～11:30 30名） 本校PTA研修部とボランティア委員会が学区にあるトリアスとへいりん荘を訪問し、施設を利用しているお年寄りと交流会を行いました。折り紙やカレンダーづくりなどの制作活動を通して、交流が深まりました。互いに声をかけ合ったり、手伝い合ったり、和気あいあいと活動することができました。
9.16	各教室	○敬老の日に贈るお手紙作成 9月16日の敬老の日に地域のお年寄りに手紙を送る活動を、今年度は野菜づくりでお世話になった2年生が担当しました。みんなが心を込めていねいに書き上げ、配っていただきました。お年寄りからも、「とてもうれしい。」「励みになる。」等の感謝の声が聞かれ、子ども達も自分たちのしたことが役に立てたと喜びました。



期 日	会 場	内 容
11.29	体育館	○PTA教育講演会 (13:30~14:30 15名) 毎年実施している福祉をテーマにした教育講演会に、山梨県出身のシンガーソングライター、伸太郎さんをお迎えして、ボランティアについてお話していただきました。東中の部活動ボランティアなど自身の体験を子ども達にも分かりやすく、保護者や地域の皆様も楽しくお話していただきました。また、すてきな歌声も聞かせてくれ、すてきなひとときを過ごすことができました。



(3) 「心を豊かに耕す取り組み」

期 日	会 場	内 容
通 年	各教室	○本の読み聞かせ (各回20分×14回) 毎週金曜日の朝、読書ボランティアによる本の読み聞かせを実施しました。1年生から6年生までみんな優しい声で読まれる本の世界に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎていきました。「もっと読んでほしいな」「つぎはいつかな？」と子どもたちもボランティアの方々も楽しみにしている時間です。
通 年 計16回 1学期 4回 2学期 8回 3学期 4回	校門前	◎ふれあいあいさつ運動 (7:30~8:00 延197名) 毎月初めの月曜日と金曜日は地域ボランティアの方々が児童会役員と校門に立ち、登校する子どもたちとあいさつを交わしあう、ふれあいあいさつ運動を実施しました。ボランティアの「ピースして!」のうちわを見てみんなピースサインを返してくれ、笑顔と交流も深まる時間となりました。 また、学校まで来られなくても、通学路のあちこちに立って、登校を見守りながらあいさつ運動に参加してくれる方も多く、安全な登下校の見守りに一役買ってくれています。
8.1・2 9.17~19 10.15 18 21 29	家庭科室	◎ミシンボランティア(各回90分×9回 延67名) 5年生の家庭科ではミシンを使います。地域の方々に家庭科の授業で取り組むミシンの補助に入っていただき、手伝っていただきました。地域の方々のために夏休み中に学校で使用するミシンの使い方に講習会形式で慣れていただきました。 2学期に家庭科の授業に入っていただき、ミシン使用のお手伝いをしていただきました。子ども達も初めてのミシンに悪戦苦闘でしたが、ボランティアの皆様の指導により、大きなトラブルも無く、みんな楽しく制作することができました。「とても分かりやすかった。」「また来てほしい。」など、子ども達にも好評でした。また、会話しながらお互いに楽しい時間を過ごせ、ボランティアの皆様とのきずなも深まりました。



期 日	会 場	内 容
11.16 2.14	玉諸小 体育館	○フェスティバルたまもろ ○二分の一成入式 子ども達が異学年の仲間に分かれるたてわり班ごとに簡単なゲームのお店を考え、運営し、お客さんに喜んでいただくフェスティバルたまもろ。成人となる20才のちょうど半分の10年を振り返り、これからの10年を夢を持ってがんばる決意を発表する二分の一成入式。どちらも保護者を中心に地域の方に参観していただきました。



(4) 「地域とのふれあい」

期 日	会 場	内 容
10.29	玉諸小 各教室	○学校開放日・道徳授業参観 (10:50～14:30講師 5名 ミシンV 8名・参観多数) 学校開放日を設定し、3・4校時を学校開放、保護者、地域の皆様に参観していただきました。5年生の家庭科では、ミシンボランティアにお手伝いいただき、ミシン実習を参観していただきました。多数の保護者とボランティアとの交流も見られ、保護者から感謝の言葉もいただきました。 5校時は全クラス道徳の授業参観を行いました。地域の皆様もたくさん授業見学されました。また、地域の見守り隊の方にゲストティーチャーとして授業に参加していただき、安全な登下校の見守りへの思いをお話していただきました。普段の学校の様子を見ていただくことで、地域や家庭の学校への理解も深まったようです。
11.23 12.1	濁川河川敷 へいりん荘 玉諸公園	○玉諸地区濁川河川清掃 ○玉諸公園等の清掃／全地域 2日間にわたり、地域の皆さんがゴミ拾いや落ち葉拾いを行いました。今年は児童にチラシを配布して参加を呼びかけたので、玉諸公園の清掃には児童も集まり、一生懸命に落ち葉を掃いて集めてくれました。いっぱいになったゴミ袋が軽トラック2台分以上にもなり、大きな成果となりました。
12.10	体育館 各教室	○昔の遊び体験会(10:45～12:25 23名) 1年生の生活科では、けん玉・はごいた・こま回し・おはじき・あやとり等の昔の遊びを学習しています。今回、昔遊びの講師として、地域の方々にお手伝いいただき、1年生と交流しながら、昔の遊びについて学習しました。初めて体験する遊びばかりでしたが、ボランティアの方々も熱心に指導してくださり、子ども達も大興奮でした。また、国玉町いきいきクラブ様、里吉の堀之内久美子様よりお手玉を自作して寄付していただき、子ども達もうれしそうでした。
2.5	甲府市民俗資料館	○甲府市民俗資料館見学(9:00～11:30 13名) 3年生は社会科の授業で昔の生活や道具について学習しています。民俗資料館で昔の道具を見学した際に、地域の方に使用方法などについてお話を聞きました。見たことない道具の数々に子ども達も興味津々で、「これはどう使うの?」「おじいちゃんちにあった」など、質問や感想がたくさん持つことができました。昭和時代にタイムスリップしたようなひとときでした。



4 1年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

玉諸地区の特性として、宅地化が進み、人口の増加も著しいものがある。特に若い世代の人口増加が見られ、この子ども達が通う玉諸小学校も県内でも2番目のマンモス校となっている。このような背景から、住民どうしのコミュニケーションがとりにくくなると同時に、児童が地域と交流する機会もなかなか見られない状況になっていた。そんな中、学校と地域が手を取り合って大きな4つの事業内容の枠組み（「学校・地域との連携による、いのちの授業」・「学校・地域・関係機関等の連携による、福祉教育の取り組み」・「心を豊かに耕す取り組み」・「地域とのふれあい」）を決めて実施できた。以下に今事業の成果と課題を記し、総括としたい。

（1）成 果

- 学校の教育活動と関連付けて、地域と家庭と児童が互いにふれあうことのできる機会を作るため、各学年に事業を展開できた。参加ボランティアからは、「子ども達とふれあい楽しかった。」「子ども達がかわいかった。」「できることがあればこれからも協力したい。」などの感想が多数寄せられ、地域の方々と子ども達の交流が活性化された。
- 交通安全協会玉諸支部を先頭に、玉諸地区食生活改善推進委員会や駐在所などと連携して朝のあいさつ運動を一年間行った。うちわを持つての活動のアイデアが、子ども達にもボランティアにも大好評で、互いの距離を一層近づけてくれたように感じた。地域の皆さんが登下校の安全を見守ってくださっていることが再確認でき、子ども達も気持ちよくあいさつができるようになってきた。
- ミシンボランティアや昔遊び体験講師など、新規事業を多く設定した。事業内容の連絡や必要な人数などの学校からボランティアをお願いする経路を一本化、簡略化したことで、連絡調整がスムーズになり、円滑な事業の運営につながった。
- 甲府市や玉諸地区の社会福祉協議会等の関係諸機関と連携して児童の高齢者体験事業を実施した。児童2人に地域ボランティアが1人ずつ担当し、器具の装着や案内などの手伝いを行った。限られた時間の中で関係機関と連携することで、学校や地域が行う事前準備や運営の簡略化につながった。
- 学校職員、地域の方々などたくさんの大人の目が子どもの活動に注がれることが、子どもの活動の安全体制の確立につながった。また、地域ボランティアと子ども達が積極的に交流する姿がたくさん見られ、そのことが、地域の活性化と子ども達の学習や活動の深化だけでなく、安全確保にもつながった。

（2）課 題

- 各事業において余裕を持った計画立案をすることにより、各種団体に幅広く呼びかけることができ、手厚いサポートが可能になると考えられる。来年度以降も継続する事業については、できるだけ余裕を持ってボランティアを募れるような連絡体制を整えていきたい。
- 今年度実施できた事業を来年度以降も継続していくため、学校と地域、地区社協等各種団体の連携の在り方を各団体で引き継いでいく必要がある。特に学校と地区社協の連携方法、地区社協と各種団体の連携方法が重要と考えられる。また、その連携方法を確認する場を設定する必要があるかもしれない。
- 今年度は事業の推進に予算の裏付けがあったが、来年度以降経費がかかる場合の方策について考える必要がある。
- 今回は各種団体だけでなく、個人で協力していただいた方々も多く見られた。玉諸地区には様々な特技を持つ方やボランティアに興味を持っている方など多数いらっしゃると思われるので、そういったものを使う存分發揮していただけるような「人材バンク」のようなものが作っていただければ考える。

（3）総 括

より安全に、より効果的な心豊かなボランティア活動を、と考えたときに、玉諸地区社会福祉協議会をはじめとする玉諸地区各種団体のご協力により、地域と学校が一体となって効果的に実施できたことは、子ども達のこころの育成の面からも、地域のつながりを強化するためにも非常にありがたいことでした。

今後も玉諸地区の皆様の幅広い協力を得ながら、玉諸地区らしい教育活動やボランティア活動を進められるよう、地域と学校、家庭の連携を深める方策をさらに模索していきたいと考えています。

この場をお借りしまして、本事業にご協力いただきました関係諸団体の皆様にお礼申し上げます。

令和元年度 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実績報告書

国母地区社会福祉協議会

1 福祉教育推進委員会

委員構成	役 職	氏 名
22名	国母地区自治会連合会会長	佐野 善臣
	国母地区文化協会会長	斉藤 義治
	国母地区青少年育成推進協議会会長	上田 茂樹
	国母地区子供クラブ指導者協議会会長	内藤平八郎
	甲府市消防団国母分団分団長	許山 敏
	交通安全協会国母支部支部長	神田 和三
	国母地区シニアクラブ連合会会長	阪口 憲弘
	国母地区食生活改善推進委員会会長	斉藤 住子
	国母地区自治会連合会女性部長	廣瀬由美子
	国母小学校PTA会長	向山 功一
	国母小学校校長	穂原 桂
	国母小学校教頭	荻野 清彦
	甲府市社会福祉協議会(ボランティアセンター) 課長補佐	京ヶ島 誠
	甲府市社会福祉協議会 (地域福祉推進担当) 主任	松木 知佳
	甲府市社会福祉協議会 (地域福祉推進担当) 主事	清水 建斗
委員長	国母地区社会福祉協議会会長	小柴 哲也
	国母地区社会福祉協議会副会長	向山 公文
	国母地区社会福祉協議会副会長	三科 哲夫
	国母地区社会福祉協議会副会長	小沢未知子
	国母地区社会福祉協議会女性部長	長谷川むつ美
	国母地区社会福祉協議会会計部長	海野 武美
事務局	国母地区社会福祉協議会事務局次長	宮田 仁
開催期日	内 容	
R1.7.29	第1回推進委員会 ○国母地区社会福祉協議会の新規事業取組として、「地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領」に基づき、活動の趣旨及び、別紙「地域と学校が連携して行う活動」の事業計画(案)について、理解・協力を頂き、出席者の承認を得ました。 ○活動予算である「事業活動助成金」の用途等について、出席者の承認を得ました。 第2回推進委員会 ○新型コロナウイルスの感染対策を考慮のうえ、第2回推進委員会は中止になりました。 ○「地域ぐるみボランティア活動推進事業」、「地域と学校が連携して行う活動」、「事業推進収支決算書」の各実績報告は、書面にて福祉教育推進委員全員に報告しました。	

2. 地域と学校が連携して行う活動

期 日	会 場	内 容
6.20 10.3 2.6	国母小学校 校門前	登校時の挨拶、声かけ運動 全校生を対象に、先生、PTA、ボランティアの関係団体、地域住民が、登校時の子供たちへの挨拶・声かけを「明るく、楽しく、元気よく」交通安全にも繋がることを願い実施しました。 
7.2	国母小学校 多目的ホール	甲府空襲の話を聞こう 6年生を対象に、斉藤義治様(文協)から子供の頃の体験を伺いました。国民学校当時の運動会の様子、甲府空襲時の照明弾投下から始まり、実際に起こった話を子供たち全員が真剣な表情で聞いていました。 「食料が無いひもじさ」、「大切な家族が失われてしまうことがある」、「今の平和を崩さないよう、世界中が取組まなければならない」という感想を持ちました。
10.3	国母小学校 多目的ホール	国母地区の歴史を知ろう 5年生を対象に、岡田修様(文協)から我が町国母の話を詳しく伺いました。昔の町の様子や成り立ち、国母の名の由来など、子供たちが全く知らないことについて、丁寧に説明して頂きました。土地の様子や川のことなど豊富な資料を画面に映して話され、タイムマシーンで歴史を遡った様な気持ちになりました。子供たちはたくさんメモを取り、積極的に学んでいました。 この話をもとに、自分なりの課題を持ち、調べる活動をしました。その成果を令和学習会で発表していきたいと思います。また、子供たちは初めての歴史学習であり、良い機会を与えて頂き感謝しておりました。
10.7	国母小学校 多目的ホール	国母小学校の歴史を知ろう 6年生を対象に、岡田修様(文協)から国母小学校の歴史について、年表をもとに学びました。慈光院に豊住学校があったこと、国母尋常小学校、高等小学校があったことなどを聞きました。戦時中には、熊野神社などに小型飛行機を隠しておいた話など熱心に聞いていました。その後の令和学習発表会の参考にすることができました。
10.4 10.7 10.9	国母小学校 家庭科室	ミシンでトートバックを作ろう 5年生を対象に、長谷川むつ美様他7名の自治連・社協女性部の補助のもと、3クラス別(各8班)でミシンを使用し、トートバックを作りました。また、ほとんどの班に補助者が1名つき、失敗も少なく、どの子供たちもまっすぐ縫うことができました。



期 日	会 場	内 容
10.10 10.24	国母小学校 家庭科室	楽しくソーイングしよう 6年生を対象に、長谷川むつ美様他7名の自治連・社協女性部の協力によりミシンを使用しエプロンを作りました。1～4校時まで2クラス連続であり大変でしたがどこを縫ったら良いかを考えている子供への声かけ、糸調節などをして頂きました。どの子供たちも自分の思いを込めたエプロンを作ることができ、また 予定より早く仕上がり助かりました。
10.16	国母小学校 多目的ホール	地域防災について考えよう 4年生を対象に、神田和三(安協)様他2名、許山敏様(消防)、佐野肇様(消防)他2名により、交通安全協会及び国母地区消防団のそれぞれの働き、役割についての話、危険から自分の身を守るために大事なことを学びました。また、グループに分かれ、登・下校時に気付いた国母地区の危険な場所(交差点、電柱、ブロック塀など)を出し合い、全員で確認しました。これらの学習により、国母の地域における防災施設や防災活動に関心を持ち、日常の取組や災害時に対する備えを知ることができました。
10.21	国母小学校 多目的ホール	国母地区のお年寄りの話を聞こう 3年生を対象に、島田育也様(社協)より、「子安八幡神社」の歴史、神社の創建、祀られている神様について学びました。子安神社の神様がわかり、現地へ行ってみたいとなりました。また、子供を大事にしている神社である話から、子供たちも神社を大切にしていきたいと思っています。
10.29	国母小学校 多目的ホール	3年生を対象に、阪口憲弘様(シニアクラブ)より、「戦争の悲惨さ、戦後の様子」を学習しました。戦争が終っても食べ物がなく、「配給」という制度で、少ない食べ物をみんなで分けあって食べていた話を聞き、子供たちは毎日の食べ物に感謝して食べていこうと思いました。
10.24	国母小学校 農 園	サツマイモを収穫しよう 2年生を対象に、小柴哲也様(社協)他9名が補助のもと、サツマイモの収穫体験をしました。子供たちが自分たちで苗を植え、その後に収穫を迎え、サツマイモの掘り出しなど興味深く賑やかに取組んでいました。また、次の準備として、子供たち全員でリースの台作りを行いました。
11.7	国母小学校 各教室	つるを使ってのリース作り 自治連及び社協女性部などが補助の中心になり、2年生の各教室で先日作成したリースの台に飾りつけを行いました。各自で用意した部材を、一生懸命工夫して取付しました。個性的できれいなリースが完成し、子供たちはみんな大喜びでした。



期 日	会 場	内 容
11.11	国母小学校 家庭科室	ご飯とみそ汁を作ろう 5年生を対象に、斉藤住子様他9名の自治連・社協女性部が補助のもと、1時間目から6時間目まで長時間の実習になりました。子供たちに配る野菜やみそを分けている間、火加減や野菜を切るところを見て頂き、どの班もスムーズに調理することができました。また、一日中継続の補助者の声かけにより、各手順がスムーズにできました。特に大根を煮込む場面においては、子供では判断が難しく、教師の手が回らないところで、補助者に指示して頂き助かりました。 
11.14	国母小学校 家庭科室	工夫して美味しい食事を作ろう 6年生を対象に、斉藤住子様他9名の自治連・社協女性部のもと調理実習を行いました。子供たちは、先日、自ら作成したエプロンを着け、各班それぞれに、芋もち、ポトフ、ジャガイモハンバーグなどを作りました。補助者は各班に入り、包丁や皮むき器の使い方、火加減などを注意するように、子供たちへ声かけして頂きました。出来上がった料理を一緒に食べ、「おいしかった」と感想を頂くなか、地域との交流も図られ、楽しい学習になりました。   
1.29	国母小学校 体育館	昔から伝わる遊びを楽しもう 1年生を対象に、小柴哲也様(社協)他15名の指導・補助のもと、保護者の協力を得て、昔から伝わる遊びを体験しました。子供たちは4名(男女混在)1組になり、10種類(お手玉、あやとり、ビー玉、こま回し、けん玉、竹馬など)の遊びを順次行いました。指導者と子供とが、マンツーマンで実施でき、楽しい時を過ごしました。子供たちの挨拶、お礼の言葉とは別に、後日、指導者及び補助者全員に子供たちから感想文を頂きました。子供たちの真心が伝わり、このような機会、ふれあいの場に感謝しています。  

3 1年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

○令和元年記念行事（於：11月16日（土）国母小体育館）として、「令和を生きる新たな国母小の歴史を創る学習発表会」が全校生を対象に実施されました。3年生から6年生の子供たち全員で、「地域と学校が連携して行う活動」の学習成果を、寸劇風にまとめたり、また、クイズなどを交え工夫され元気よく発表が行われました。先生方の熱心な指導と子供たちの真摯な取組により、発表内容は大変素晴らしく、招待・保護者ともに見・聴き入り感動した様子でした。



○地域ぐるみで連携して行う福祉教育活動を推進するため、各関係団体には、講師、指導者及び補助者として、9種類の学校行事を、19日間、115人の協力を頂き実施しました。

なお、学習内容は、事前に先生と講師（又は補助者）とで調整を行い、学校の意図する授業内容、補助する範囲を決めました。地域住民と子供たちとの交流が少ないなか、授業を通じ（甲府空襲、国母地域・学校の歴史、防災関係、実習（ミシン使用の縫製、リース作り、食事作り、昔の遊びなど）広範囲にわたり、真剣かつ、楽しく学習できたと考えます。このような機会により、子供たちと地域の人達とがふれあうことができ、「福祉の心」の醸成にも役立っていると思われます。

○「福祉教育推進委員会」の2回目開催は、新型コロナウイルスの感染対策を考慮し、中止になりました。そのため、「地域と学校が連携して行う活動」の学習成果報告は書面で行いました。

○先生方及び指導者、補助者などから、次年度以降も福祉教育活動としての事業継続の要望がありました。今後、関係者と協議のうえ、実施内容を検討し、継続していきたいと思えます。

● ● ● 甲府市ボランティアセンターの紹介 ● ● ●

甲府市ボランティアセンターとは

甲府市ボランティアセンターは、「ともに生き、ともに支えあうまちづくり」を目指し、広く市民にボランティア活動の実際を周知するとともに活動の拠点として、ボランティア活動に関する広報・啓発と情報の収集・提供などの推進事業を掲げ、基盤整備の充実を目指して、ボランティア活動への参加のきっかけづくり、また参加者の技術や知識・得意分野などを地域で生かせる仕組みづくりのお手伝いをしています。

運営の仕組み

甲府市ボランティアセンターは平成6年4月1日に甲府市により設置され、甲府市社会福祉協議会によって運営されています。

ボランティアについての相談・登録・紹介

「ボランティア活動をしたい人」、「ボランティアの協力を必要としている人」といった方々やグループ等からの相談を受け、コーディネートします。

活動の基盤づくりの援助

- ・ ボランティア・NPO団体への支援
- ・ 高齢者疑似体験学習の指導と機材の貸し出し
- ・ ボランティア活動機材の貸し出し
(車いす・白い杖・アイマスク・紙芝居・積木セットなど)
- ・ 小・中・高校の福祉教育学習への協力
- ・ ボランティアグループの会議や活動の場としてボランティアビューローの開放
- ・ ボランティア活動中の万一の事故に備えて保険への加入窓口

ボランティア活動の情報収集や情報の提供

- ・「ボランティアニュース」や「ボランティアだより」の発行
- ・ボランティアボード及び新聞等でのボランティア情報の提供
- ・「ホームページ」やSNS（フェイスブック）による情報発信
- ・「甲府市ホームページ」や「広報こうふ」でのボランティア情報の提供

ホームページアドレス：<http://www.kofu-syakyo.or.jp/>
甲府市社会福祉協議会のホームページよりアクセス願います。

育成・研修ボランティア講座の開催

- ・傾聴や手話、災害ボランティアなど各種ボランティア講座の開設
（講座を修了された方々がグループを作る際のお手伝いもします）

フードアプリケーションなどの実施

各家庭や事業所等で余った食料品などを寄付していただき、必要な家庭及び団体等で活用していただくためのコーディネート

古切手・牛乳パック・ペットボトルキャップ・不要入れ歯等の収集の窓口

取りまとめてそれぞれの引き取り手にお渡しします。



甲府市ボランティアセンター事業の紹介

養成講座や研修会の開催



災害ボランティア学習会
災害 VC 運営訓練



傾聴ボランティア養成講座



手話学習会

ふれあい交流フェスタ



ボランティアウィーク



フードアプリケーション



ボランティアの情報発信



お問い合わせは、
甲府市ボランティアセンター
までお願いします。

TEL 055-223-1061
FAX 055-231-6061

福祉講話講師の紹介

次の方を講師として紹介しています。

- ◇肢体不自由者（車いす使用）…………… 歩行が困難な方の車いすでの生活実態
- ◇視覚障がい者（盲導犬同伴）…………… 目が不自由な方の生活実態と盲導犬の役割
- ◇聴覚障がい者（手話）…………… 耳が不自由な方の生活実態と、手話を用いての
コミュニケーション方法
- ◇環境教育支援団体…………… 環境について考える
- ◇災害・防災ボランティア団体…………… 被災地での支援、現状、災害防災についての日頃の備
えなどを学ぶ
- ◇ボランティア活動実践者…………… 障がいのある女の子と妹、その母親とのユニット等
(障がいを乗り越え、音楽を通してのボランティア活動)

☆講師の紹介については、
甲府市ボランティアセンターへご連絡ください。

TEL 055-223-1061

FAX 055-231-6061



● ● ● 高齢者の体と心を体験してみよう!! ● ● ●

(高齢者疑似体験セット)

目 的

1 高齢者の心を思いやる

グッズを付ける事によって、手足が上げにくかったり、屈伸ができなくなったりします。また、耳が遠くなり、目も白内障のためかすみ、見えにくくなります。そうした身体機能の低下を体感する事を通して、高齢者の心理状態を忖度し、高齢者を理解するための「福祉のこころ」の醸成を図ります。

2 介助者の役割を理解する

疑似体験セットを装着して体験してみると、介助される側、介助する側にも個人差があることに気が付きます。

このため、介助者は基本的には自立支援を目的とするので、体験者に必要以上に手を出さないことが大切であり、観察者は「体験者の様子はどうか」「介助の仕方は適切か」などをしっかりと観察し、体験後に助言すると共に体験時間の調整を図る必要があります。

このように、疑似体験では、高齢者や介助者の役割を通して、介助者がどのようにサポートするのが適切なのか、自分なりのノウハウを見つけるきっかけとします。

3 バリアフリーの必要性を学ぶ

高齢者疑似体験セットは、自分が高齢者になったときの心身の状況を体験するものです。重りをつけた手足を無理やり動かしても意味がありません。「高齢者になった」という自己暗示をかけて臨むことが大切です。

普段は何気なく歩いている段差などを、実際に疑似体験セットを装着して体験することで、その危険性を認識し、高齢者が日常生活を営む上でのバリアフリーの必要性を学ぶきっかけとします。



【高齢者疑似体験セット装着】



【高齢者疑似体験セット】

福祉ボランティア活動実践校事業及び
地域ぐるみボランティア活動推進事業活動集
(市社協指定実践校・指定地区社協)

— 令和元年度 —

令和2年6月 発行

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会 ボランティア振興課
(甲府市ボランティアセンター)

〒400-0858 山梨県甲府市相生2-17-1
TEL 055-223-1061 FAX 055-231-6061
E-mail:k-vc@kofu-syakyo.or.jp

※この活動集は、赤い羽根共同募金分配金により作成しました。